

「生産管理システム」を作いませんか!

ATACは「安く、疾く、現場で役立つシステム」を構築します

財団法人 大阪科学技術センター
ATAC 副運営委員長 成富 辰雄

近年のパソコンの高性能化と普及は著しく、せいぜい30年前には数億円もしたコンピュータよりも遥かに高い性能を持つパソコンが溢れ、今やどんな小さな事務所でも机ごとに1台は置いてある時代になりました。経理処理や税務計算さらに販売管理等には優れた、安価なパッケージソフトが出回り重宝されています。

しかし中小規模特に従業員50人以下の小規模工場ではシステムを構築して生産管理を行なっておられるところは少ないようです。私共が調査させていただいた企業では受注、出荷の記録や受注残の管理等に「エクセル」のような表計算ソフトを非常に上手に使っておられるところが多いのですが、生産管理システムといったレベルではないようです。エクセルでは同じデータのコピーや転記が多く、また使用分野も限定されていて、経営者の方々は少なくともエクセルと同じ「オフィス」製品のひとつである「アクセス」のようなデータベースソフトを使ったシステムを作りたいという希望が述べられています。

一昨年経済産業省の委託で活動されたIT経営応援隊の「製造業における生産管理ソフトウェアWG」は20~100名(売上げ規模5~20億円)の中規模中小製造業の調査で、このあたりの企業が生産管理プロセスでのIT活用が進んでいないのは、身の丈に合ったIT投資が難しいレベルであるからだとし、企業規模とシステム導入の一般的な関係として右の表を掲げています。そしてこの規模の企業がシステム化を更に進めるためには必要なITシステムは自分達の力で開発することを前提に「中規模中小製造業による、中規模中小製造業のためのIT経営」を提唱しています。

現に私共が訪問した企業の中には、社長自らあるいは特定の従業員が自社で必要なシステムを作り上げておられる例をお見受けします。これなどは上に述べたような理想的なシステム構築ですが、矢張り小さなシステムといえどもプログラミングな

どの知識が必要であり、また多忙でそのようなところに手をかける余裕が無いのが多いのではないのでしょうか。

そこでATACでは生産管理システムを構築したいけれども目下社内での自製は困難であり、かといって外部に頼んだり、あるいは市販のパッケージを使うのでは非常に高価のため導入を諦めておられる企業様に安価なシステムを提供しようという仕事を始めました。一口に生産管理システムと言いますが、各社で現在必要とされているのはその中の一部であることが多く、これまでの調査では「受注から納入までの進捗管理」、「原材料や製品の在庫管理」、「各部門毎あるいは製品毎の原価管理ないしは損益管理」等に関心が深いようです。何れも「納期短縮」、「在庫削減」、「コスト低減」といった工場合理化に不可欠のテーマです。要望に応じて夫々の問題について安価でかつ短期間でシステム作りを行い、現場の要望に応じていきたいのが狙いです。

更に各社の管理者、担当者の方々との交流、指導を通して「自分達による、自分達のためのシステム」へ近づけることを理想としています。

コンサルティングと共にシステム構築が企業経営のお役に立ち、クライアント様に喜んで頂ければこんなに嬉しいことはありません。

システム導入の一般的な例

企業規模(売上高)	投資金額	稼働しているITシステムの内容
1千万円前後	30万円	パソコン1台とオフィスツール 表計算ソフトで、得意先管理と経理処理
1億円前後	100万円	社内LANと簡易業務パッケージ 給与や経理などの市販パッケージソフトを導入
5~10億円	1000万円	基幹業務パッケージと社内データベース 経理に係る受注や発注システムが稼働
10~20億円	2000万円	基幹業務パッケージを最小のカスタマイズで導入 経理や受発注システムと生産管理システムが一部稼働
50億円前後	5000万円	基幹業務パッケージを独自仕様にカスタマイズ 在庫管理や生産管理システムも稼働しているが、利用していない部分もある

出典:「製造業における生産管理ソフトウェアWG」報告書(平成18年3月)